

月日	月 日	月 日	月 日
経過	手術前日(入院日)	当日(術前)	当日(術後)
目標	心身ともに安定した状態で手術を受けられる 治療に対する不安を表出できる		術後合併症を起こさない(出血、深部静脈血栓症、肺炎、縫合不全、感染、腸閉塞)  合併症予防のためのリハビリ (歩行訓練呼吸訓練)が行える
検査	身長、体重測定 採血		採血
食事	※朝食は軽食とし、ご自宅で 昼から絶食(水、茶、スポーツドリンク可) 21時以後絶飲食 経口補水液は、麻酔科の指示で服用	絶食(水分は医師 の指示で再開)	朝より水分制限なし
処置・観察	リストバンドを装着します (退院日まで)  弾性ストッキングのサイズを 測定し、お渡しします  臍処置します (シャワー前)	朝 浣腸します  時間になれば、看 護師が手術室に ご案内します	手術後以下の挿入物、 装着物があります ・酸素マスク → 取り外します ・心電図モニター → 取り外します ・点滴の管 → ・背中のチューブ(鎮痛剤) → ・創部の管(ドレーン) → ・尿道カテーテル → ・フットポンプ(血栓予防) → 取り外します  創部を観察、処置を 行います
状況に合わせて、体温・脈拍・血圧・酸素飽和度を測ります			
注射・内服	持参薬、お薬手帳を看護師に お渡しください  下記を服用します ・昼 250ml の下剤 ・夕、抗菌薬 ・眠前→下剤、抗菌薬	以下の点滴を 行います ・持続点滴 ・抗菌薬 ・鎮痛剤	腸蠕動促進薬を服用します  夜 血栓予防薬を皮下注射します
行動・リハビリ	シャワー浴、洗髪をします  制限ありません	以下の手術準備をします ・手術着に着替え ・弾性ストッキング装着 ・入れ歯、アクセサリ、時計等の取り外し  翌朝までベッド上 安静です	午前中 全身清拭し、手術着から パジャマに着替えます  付き添いのもと、リハビリを 開始します
説明	主治医・麻酔科医より説明(外来又は入院時) ・治療計画について ・手術について ・麻酔について 病棟・手術室看護師より説明 ・入院生活について(パスシートを使用) ・手術について 薬剤師より説明 ・持参薬確認 ・使用薬剤について	医師より説明 ・手術の結果について  看護師より説明 ・術後の注意点について ・安静について ・痛み止めの使用方法 について	

\* 入院に際して、この用紙を必ずお持ちください

\* 入院時に栄養状態を評価して栄養管理計画を立てます。定期的に栄養状態の再評価を行い計画を見直します。

\* この表はおよその経過をお知らせしたものです。種々の都合により、予定通りではないこともあります。

月日	月 日	月 日	月日～月日	月 日～月 日				
経過	術後2日目		術後3日目	術後4～5日目	術後6～8日目(退院日)			
目標	術後合併症を起こさない(出血、深部静脈血栓症、肺炎、縫合不全、感染、腸閉塞) 合併症予防のためリハビリ(歩行訓練、呼吸訓練)が行える				排便コントロールが図れる 退院後の日常生活上の注意点が述べられる			
検査								
食事	朝より流動食開始		朝より全粥食	4日目 朝より常食	退院日は朝食のみ			
処置・観察	以下の挿入物があります ・点滴の管 → 点滴が不要となれば抜去します ・背中のチューブ(鎮痛剤) → 術後2～3日で抜去します ・創部の管 → 状況を見て術後3～7日で抜去します ・尿の管 → 術後2～3日で抜去します				退院時にリストバンドを外します			
		創部を観察、処置を行います						
	状況に合わせて、体温・脈拍・血圧・酸素飽和度を測ります							
注射・内服	以下を服用します ・腸蠕動促進薬 ・鎮痛剤				以下の退院処方があります ・下剤 ・鎮痛剤			
	夜 血栓予防薬を 皮下注射します	朝、夜 血栓予防薬を 皮下注射します						
	以下の点滴を行います ・朝、夕点滴 ・鎮痛剤			徐々に点滴量が減ります				
行動・リハビリ	状況に合わせて、看護師が全身清拭、洗髪、足浴します				創部の治癒状況に合わせて シャワー浴を再開します (週3回、病棟毎で日が異なります)			
	リハビリを継続します				(退院日) 朝食後退院です			
説明			医師より説明 ・退院後の療養計画、療養上の留意点について					
			看護師より ・退院後の療養生活について (退院療養計画書をお渡しします)					
			栄養士より説明 ・退院後の食事について					

